



脇町ロータリークラブ

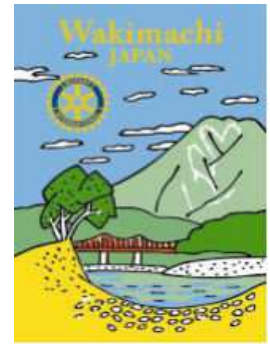
第2670地区

徳島第2分区 脇町ロータリークラブ

2020年2月13日 木曜日

第31回例会 No.2703

会員総数: 41名 修正出席率: 63.4%



◎会長挨拶

南由起子会長 今日は何の日でしょうか？
今日はバレンタインイブです。「本命チョコ」「義理チョコ」「自分チョコ」「友チョコ」「営業チョコ」といろいろあります。ではどのチョコレートの売上げが伸びているのでしょうか？「自分チョコ」は定着していますが「愛を告白」するためにチョコレートを買う人は減少し市場は縮小しているそうです。しかし、今年は売上げが増えそうなチョコレートがあります。それは「義理チョコ」ではなく「サポチョコ」です。サポートのサポで「サポチョコ」 売上げの一部が発展途上国の支援に使われます。実際に売上げは伸びているそうです。いろいろな会社が社会貢献につながる「寄付金チョコ」を積極的に提案しています。松屋銀座は「世界の女の子をチョコで支援」、森永製菓は対象製品1個につき1円をカカオ生産国の子供に支援しています。購入する人にとっては「サポートできるのなら」「自分チョコには寄付チョコ」がいい…寄付をするのは、なかなか難しかったりもしますが、何かを買うことで、実は寄付につながっているというのは、とてもいい取り組みだと思えます。身近な支援からは始めるのがいいと思えます。

◎幹事報告

古田副幹事 幹事報告をさせていただきます。
到着週報 ●阿波池田 各RC
到着書類 ●徳島西RCよりIMでのパネリスト変更の案内

◎卓話

須藤会員 11月14,15日に開催された「大嘗祭」。天皇陛下による初めての新嘗祭であり、阿波の麻織物「麩服(あらたえ)」と三河の絹織物「繪服(にぎたえ)」が神座に祭られ、織物は神がひょう依する依り代(よりしろ)となり、五穀豊穡を祈ります。5月には、大嘗祭で使う米を収穫する2つの地方を決める「斎田点定(さいでんてんてい)の儀」が、国内の神々をまつる神殿で行われました。

儀式では、亀の甲羅をあぶってひびの入り具合で物事を定める「亀卜(きぼく)」と呼ばれる宮中に伝わる占いが行われ「大嘗祭」で使う米を収穫する東の「悠紀(ゆき)」地方に栃木県が、西の「主基(すき)」地方に京都府が選ばれました。その後、米を収穫する田んぼ「斎田」が決まりました。栃木県は「とちぎの星」という品種が作付けされた高根沢町の田んぼに、京都府は「キヌヒカリ」という品種が作付けされた南丹市の田んぼになりました。そして9月、栃木、京都それぞれの田んぼで、米を収穫する儀式「斎田抜穂(さいでんぬきほのぎ)の儀」が行われました。

他に「庭積(にわづみ)の机代物(つくえしろもの)」と呼ばれる全国の都道府県から寄せられた特産物も置かれます。儀式では天皇陛下が斎田で収穫された米などを天照大神(あまてらすおおみかみ)とすべての神々に供えたうえで、みずからも食べ、国と国民の安寧(あんねい)や五穀豊穡などを祈られます。

麩服は氏族「阿波忌部」が織った『大麻』の織物を指します。4月に種をまき、収穫は7月中旬。そこから糸にして吉野川市山川町の阿波忌部麩服調進協議会が10月中旬

までに織り上げました。大嘗祭 は、古来より行ってきた皇室行事です。皇室に欠かせない植物でもありながら、現代の日本では栽培にあたって厳格な管理が要求されます。それは鹿服に向けた栽培でも同じで、防犯カメラに赤外線センサーに24時間の監視員。戦前までは監視すら必要なかったわけですが、神様の衣＝大麻という植物を敵視しないとイケないのは、やはりおかしな話だなと思います。資金的な負担も大きいとのこと。『運営資金も政教分離の観点から自治体に頼ることができず、資金は全て地元の負担となっています。個人や各種団体からの寄付金で賄ったそうです。

これら金銭的な負担と監視等の肉体的・精神的な負担もある中、この調進が途絶えないよう務めていらっしゃることに改めて敬服いたします。何と言っても栃木県から職人さんに来てもらって大麻の栽培から糸にできる迄をお願いしなくてはいけないのでその経費が物凄く必要だったようです。テレビに写ってはいけない機械を借りるのにトラックで栃木まで取りに言ったり、宿泊などの日当は大変な経費だったようです。大嘗祭では、新穀とともに阿波の「鹿服（あらたえ）」と三河（愛知）の絹織物「繪服」が神座に祭られ、五穀豊穡を祈るといいましたが、鹿服は皇居の東に新しく建てられた大嘗宮の中心となる悠紀(ゆき)殿、主基(すき)殿それぞれの神座に「神のより代」として2反ずつ供えられるます。大麻の糸で鹿服4反を織り上げ無くてはいけなかったのです。それと大麻を育てるのに何かあってはいけなかったので同じ畑を2号地としてもう一ヶ所秘密にもうけていたそうです。

大麻を育て麻糸を紡ぐ作業には地元の18人の会員で2017年7月にNPO法人あらたえを結成し、会員18人の内訳は40代と50代各1人、60代5人、70代8人、80代が3人と約60年前に6500人いた旧木屋平村の人口は1割以下に減少しています。典型的な限界集落で、あらたえの会員のほとんども高齢者です。大麻の栽培だけでもかなりの重労働でさらに西さんを筆頭に18人が、24時間交代しながら約3カ月間、大麻の葉が畑の外に出ないように目を光らせなくてはいけなかったということです。

畑は肌寒いような気温が低いほうがよくて、東に東宮山、南に権現山、北には高越連峰など標高千メートルを超え西側は山が迫っています。阿波忌部の人たちは、なぜ不便な奥山に居を構えたのでしょうか。大麻は育ち過ぎてもよくない。茎の直径が大人の小指の太さ以上にならない幾分やせた土地がいいと言われています。朝夕の寒暖の差が大きいことや、日当たり具合などから大麻の栽培条件に適した土地を探し求め、この場所を開拓したのではないかと思います。

大嘗祭に備えて会員たちは大麻の種をまく。畑の周囲には、2月上旬に完成した柵が張りめぐらされています。背丈より高い竹と金網で二重に囲っています。鹿服の原料になる特別の大麻ではあっても大麻取締法にのっとって栽培しなければなりません。ただ、この大麻は陶酔作用のないものでしたが、月に何回も県の薬務課が検査きていたそうです。大麻の成長は早く収穫期には高さが2,5メートルほどになります。その後熱湯で湯がき発酵させて皮を剥ぎます。9月上旬に、光沢を帯びた薄い黄褐色の大麻の繊維から麻糸を紡ぎ、織り上げ作業をする吉野川市山川町の住民団体に引き渡し、完成させたそうです。目に見えない多くの方々の努力に心より感謝したいと思います。

◎ニコニコボックス

齊藤会員、宮本会員

| | |
|------|--------------------------------|
| 次回例会 | 2020年2月20日(木) 12:30より 油屋美馬館 |
| 卓話 | 河合会員 |

☆次の会員は例会欠席でした。メイクアップして下さい。

新井会員、一井会員、小野幹事、川原会員、木下会員、郷司会員、齊藤会員、佐藤順二会員、千葉会員、

豊島会員、信田会員、秦会員、平山会員、藤村会員、南善幸会員、吉野会員
☆次回例会の出欠を佐藤直樹出席委員長まで連絡してください。